

# いっしょに あそぶ



フレンドシップインタビュー

— 臨床心理士と公認心理師 —  
**「誰もが必要なときに相談できる  
こころの専門家として」**

津川律子

VOL. **50** 2018

童謡「ぶんぶんぶん」

# —臨床心理士と公認心理師—

## 誰もが必要なときに相談できる

## ここからの専門家として

### 臨床心理士の役割と仕事

日本社会が成熟するとともに複雑化し、心理的な問題を抱える方が増えつづけています。そんななかで、心理学及び臨床心理学に基づく知識と技術の専門職として、ここらの援助を行う臨床心理士（民間資格）が求められました。

長らく心理専門職には国家資格がありませんでしたが、平成27年に公認心理師法が成立し、平成30年9月に初めての国家試験が行われ、第1号の「公認心理師」が誕生する運びとなりました。

臨床心理士の働く場所としては、精神科医療が中心と思われがちですが、そうした方は全体の約3割です。約7割の方は、スクールカウンセラーや教育相談

員等として教育の領域、子ども  
の発達や子育て、虐待やDV等  
の相談を行う福祉領域、家庭裁  
判所、鑑別所、刑務所等の司法・  
法務・警察でのカウンセリング、

大学・研究機関の心理研究・専  
門職の養成、職場のメンタルへ  
ルス等の産業・労働分野等、さ  
まざまな場面でここらの健康を  
支えています。また、災害現場



一般社団法人日本臨床心理士会

会長 津川 律子

においても、臨床心理士の役割が求められています。最近では平成30年夏の豪雨災害において、文部科学省からの要請で広島にスクールカウンセラーが緊急派遣されました。

臨床心理士の実際の仕事としては、「面接や心理検査等の心理アセスメント」「心理カウンセリングや心理療法等を駆使した心理相談」「コミュニティへの貢献としての臨床心理的地域援助」「研究活動」という4つの柱を基本として、それぞれが培ってきた技術や知識にくわえ、心理学及び臨床心理学に基づいた実践が行われています。

また、精神科医療のなかでの臨床心理士は、心理検査をする人というイメージや、医師や看護師、コメディカル等とのチーム医療の一員として働くイメージがありますが、心理的になかなかうまくいかない患者さんに関

して、臨床心理士が面談を行った  
り、カンファレンスで意見交換を  
したりすることで効果のあがる  
ケースも少なくありません。精  
神科に限らず、一般病院におい  
てもメンタルヘルスの課題がみら  
れる患者さんの対応について臨床  
心理士の役割が求められています。  
さらに、周産期のうつ状態や

高齢者等の認知症に関する対  
応、緩和ケアチームでも臨床心  
理士の専門性が役立っています。  
患者さんだけにとどまらず、家  
族の心理的支援も担っています。

医療のなかで、医師は治療とい  
う視点で専門性を発揮し、患者  
さんと日々接している看護師は、  
キユアやケアを通じて患者さん  
に働きかけます。臨床心理士は、面  
接や対話を通して患者さんの思  
いを整理することを支援し、また  
その過程を通じて浮かび上がる  
患者さん像を、医師をはじめと  
するメディカルスタッフと共有し  
ます。こうしたことによりチー  
ムに、患者さんに対しての新しい  
気づきが生まれ、患者さんへのア  
プローチの幅も広がっていきます。

ある一定以上の病床をもつ病院

には少なくとも一人の心理専門  
職が在籍することで、患者さん  
やその家族が、気軽に相談でき  
る環境が整えられるような未来  
を希望しています。

身近で気軽にアクセスできる  
メンタルの専門家

臨床心理士の仕事は、相談に  
来られた方を適切にアクセスメ  
ントし、できるだけその方にあつた  
支援を受けていただくことです  
が、本人や家族への直接の支援  
だけではありません。各領域で  
の相談やカウンセリングの場  
で出会った方のなかで、本人は気  
づいていないものの、医療が必要  
な方には医療への受診を勧め、  
経済的問題が背景にある方には  
ソーシャルワーカー等につないで  
いくのも大切な役割です。

とはいえ、現状ではそうした  
役割が十分に果たせているとは  
いえません。なかでも、複雑化す  
る社会構造にともない、大きな  
ストレスのなかで働いている方々  
は、臨床心理士につながりにく  
いのが現状ではないでしょうか。

疾患とまではいえなくとも、

グレーゾーンの方はたくさんい  
ます。そうした方が、休業や休  
職にまで追いこまれる前に、家  
族も含めて臨床心理士と出会う  
ことができれば、重症化を防ぐ  
ことにもなり、地域のコミュニ  
ティを支えることにもつながる  
と考えています。

実際のところ、日本の会社は  
中小零細企業が大半を占めてい  
ます。たとえば、中小零細企業  
に対する職域保健にもっと臨床  
心理士がかかわりをもつこと  
で、働きながら電話やメールで  
気軽に相談でき、早期対応につ  
ながるのではないのでしょうか。

そうすれば、いま社会問題にも  
なっている休業、休職で生じて  
いる莫大なコストの軽減をはか  
ることもでき、企業の健康経営  
にも貢献できるのではないかと  
思います。

わたしたち臨床心理士の長い  
間の念願であった国家資格とし  
ての「公認心理師」が誕生する  
ことをきっかけに、学校や職  
場、地域包括支援センター等、  
いままで以上に身近な場所に心  
理専門職が配置され、誰もが必  
要なときに必要なタイミングで  
利用していただける存在になり  
たいと願っています。

● 津川 律子 ●  
「つがわりつこ



プロフィール

日本大学文理学部心理学科教授、日本大学文理学  
部心理臨床センター長、臨床心理士

所属学会・役職

一般社団法人 日本臨床心理士会 会長、包括シ  
ステムによる日本ロールシャッハ学会 副会長、日本精  
神衛生学会 常任理事、日本心理臨床学会 理事、  
日本心理学会 評議員、日本総合病院精神医学会  
評議員、日本うつ病学会 評議員、日本統合失調症  
学会 評議員、チーム医療推進協議会 代議員、大  
学病院心理臨床家の集い 代表幹事

職歴

帝京大学医学部精神神経科学教室、東京警察病院  
神経科、帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科

『あゆみ保育園』、『松ヶ江学童クラブ』を開園・開設

# 仕事・子育て両立支援の取り組み

医療法人社団松和会 門司松ヶ江病院 事務長 福井智文

た。さらに、政府は待機児童解消のために「企業主導型保育事業」を開始しています。

厚生労働省の統計では、平成22年に26,000人を超えていた待機児童は、平成26年に約21,000人まで減少しましたが、再度増加し平成28年には23,500人程度となりました。この待機児童問題に対し、

政府は平成25年「待機児童解消加速化プラン」を策定。平成28年度より「仕事・子育て両立支援事業」を創設し、「企業主導型保育事業」を開始し待機児童の受け入れを拡大することになりました。

はじめに  
近年、女性の社会進出、共働き家族の増加と核家族化が進み、保育所の需要が増え、保育所に入れない待機児童が増加しています。そのような状況において、仕事と子育てが両立できるように保育所を事業所内に設置する企業が増加してきまし



## 『あゆみ保育園』

当法人においても、スタッフから「働きたくても保育所が

いっぱい子供を預けられない」「親も働いていて子育てを支援してもらえない」「保育

料・延長費用が高額で経済的に困難。何のために働いているのかわからなくなる」「育休明けで職場に復帰したいが、預かってもらえるところがなく復帰できない」等の悩み相談を受けてまいりました。

そんななかで、同じ悩み相談を抱えていた関連法人（隣接施設）の『社会福祉法人敬老会特別養護老人ホーム松和園』が社会・地域貢献として、「企業主導型保育事業」に着手し、平成30年4月1日『あゆみ保育園』を敷地内に開設しました。

『あゆみ保育園』では、両法人のスタッフの利用料については無料、昼食費無料と設定されてい



るほか、早出・遅出等の勤務時間に対応できるように、月曜日～土曜日の7時～20時に設定されており、看護・介護・コメディカル・調理師等のあらゆる職種のスタッフが利用しています。また、産休に入る予定のスタッフからも事前予約が入っている状況のため、定員満員状況となったことから、来年度は定員数増加を予定しています。

昼食は、当院栄養課が担当、管理栄養士、栄養士、調理師等が個別の形態調整と栄養管理を行い、家庭的な昼食を提供しています。

くわえて、当病院、老健施設、老人ホーム等を散歩する園児の

姿を見るだけで、患者様、入所者の方々は、自然に笑顔になり、優しく声をかけ、一緒に散歩されている姿が見うけられます。核家族化で高齢者との関わりが少ないなか、当園児たちは、優しいところ、敬うところを自然に身に付けて成長していくのではと思います。

また、人手不足の現況でも、企業内保育所完備（利用料無料）と求人を公募したところ、待機児童問題で悩んでいた方々から応募があり、採用につながっています。

保育所利用のスタッフからは、「保育園が隣接しているので、送迎にかかる時間が短縮できた」「施設内に看護師が常駐しているので安心」「高齢者の方とのふれあいがあり、たくさんの方に見守られ、支えてもらっている」「何より利用料・昼食代無料が嬉しい」等の声が聞かれ、安心して仕事ができる環境づくりにつながっています。

## 「松ヶ江学童クラブ」



次に取り組んだことは、「小学生の子供を夏休みに預けるところがない」

「学童保育は経済的に困難」「子供を家に一人で留守番させるのは不安」等の悩み相談を受けてきたことから、『松ヶ江学童クラブ』を開設しました。

平成30年夏休みから、当法人と関連法人（隣接施設）スタッフの子供（小学生）を対象に、お預かりするサービスを開始しました。

講師は教育学部等の大学生に依頼し、月曜日～金曜日の8時30分～17時15分まで、午前中は宿題勉強、午後はスポーツ活動とスケジュールを作成しています。勿論、利用料は無料。

講師と子供たちは夏でも元気に病院グラウンドで鬼ごっこ、体育館では卓球、バドミントン、フツ

トサル等を楽しみ、映画鑑賞、水族館見学、博物館見学等の外出企画、「病院・施設探検ツアー」と題して、親の働いている姿を見学する活動も企画しました。

当初、3名の利用でしたが、次第に好評を博し、最終的に6名の利用となり、学校より学童クラブの方が楽しいと言われ、親が休みの日でも子供だけ学童へ行きたいと言っていただけできるようになってきました。当初は、夏休み期間だけという企画でしたが、スタッフ・子供たちからの強い要望があり、冬休みも開園することにしました。親の勤務先や働いている姿を見学し、また精神科患者様への社会的偏見をなくすためにも、スタッフの要望がある限り継続していきたいと考えています。

## 最後に

『あゆみ保育園』、『松ヶ江学童クラブ』を利用された子供たち



ちが成長していくなかで、自分の進路を考える時期になった時、「親のようにになりたい」「門司松ヶ江病院で働きたい」と思ってもらえることが、最大の喜びであり、最終の到達目標でもあると思います。

# 「認知の歪み」をもたらす都市構造

臨床心理

加瀬 紀幸

六本木で飲み会を開くことになった。

みんなが集まりやすいからという理由で決まったのだが、ふだなじみのない場所なのでちよつと心配だった。ネットで検索すると、地下鉄六本木駅でミッドタウンを目印に地上に出ればすぐだということだった。「ミッドタウン西」を目指せば、迷うことはなさそうである。いまや東京の名所となった六本木ヒルズとは反対方向だから、いざとなればそれも目印になってくれる。わたしは、六本木を通る地下鉄が二線あるなかで、乗り換えが一回ですむ大江戸線を使うことにした。

電車を降りプラットフォームの延長通路を案内板に導かれるまま歩いて行くが、なかなか改札口に着かない。途中、ここは地下四十メートルという案内表示があった。どうやら改札口ははるか上にあるらしい。にわかには自分が歩いているのが、地面からとんでもなく深い所であることに気づかされた。

大江戸線は大深度地下を利用している。最初の大深度地下鉄駅は「新御茶ノ

水」で、一直線に地下に潜っていくエスカレーターに着地点はみえず、まるでSF映画の一場面のようだと言えなくなった。

わたしも興味半分で行ってみたことがあったが、その深さを目の当たりにして思わず立ち止まってしまった。そんな記憶が蘇ってくる。

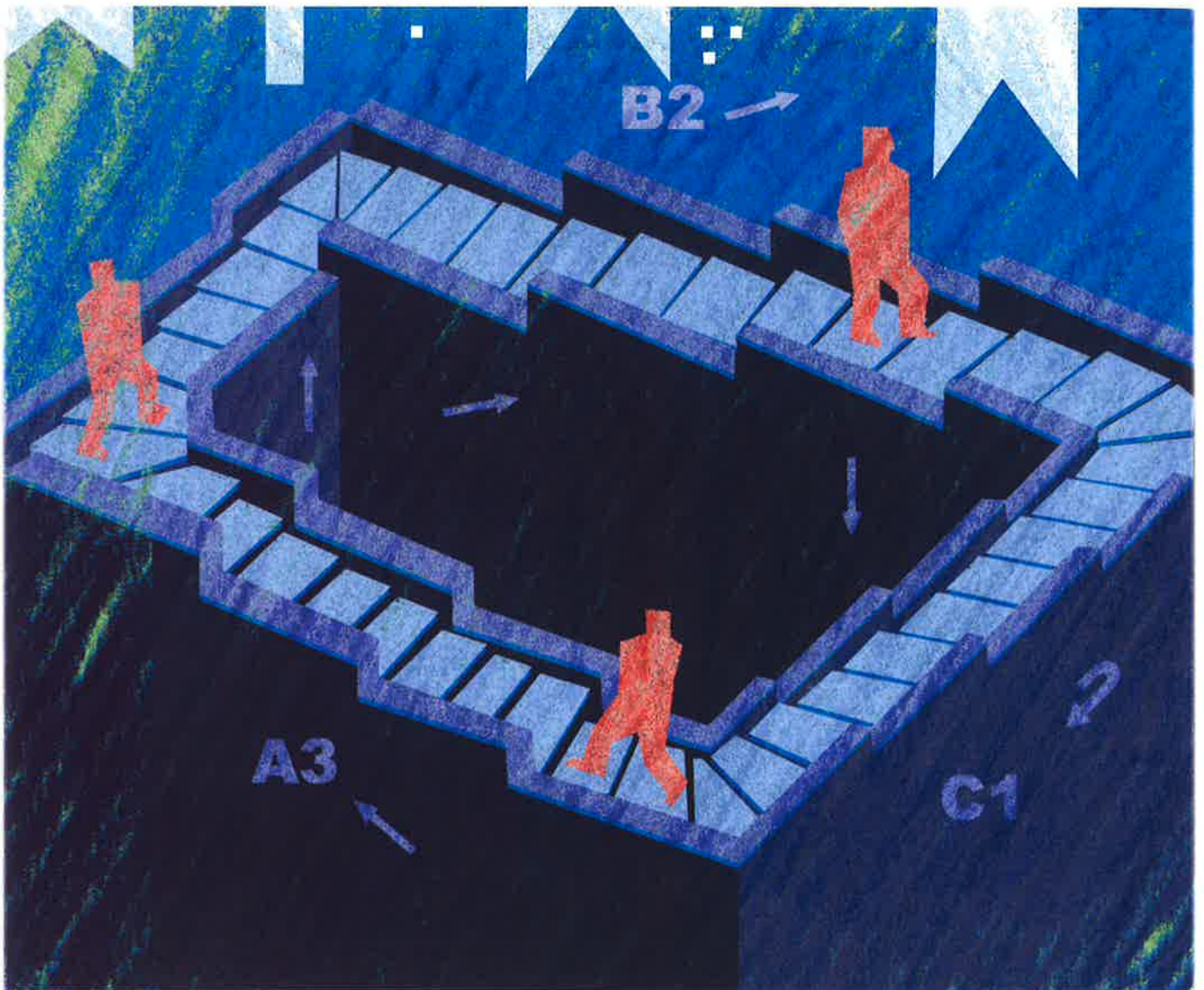
何でもないと思っていた場所がいかにも危険と隣同士であるか、四十メートルの地下で全電源喪失が起きたとき、どれだけの人が、何事もなく地上まで到達できるだろうか。真っ暗闇のなかである。十何階の複雑に入り組んだビルを上っていくのと同じ状況なのである。地震が起き、途中の壁が崩れていたら、突然の大雨で水でも流れ込み、行く手を遮ってしまったら、想像してみるだけで身震いがする。

友人のなかには大深度地下の施設は、選択肢がないとき以外には決して利用しないという人もいる。けれどわたしも含めて大多数の人は、そんな危険性はいつの間にか忘れていたのではないだろうか。

最新の技術でつくりあげられたものは、安全性においても、危険は最小限に抑えられているはずだという楽観論は、どうやら信仰に近いものなのだろうか。信仰という言葉を使いたくない人は、「認知の歪み」という方がいいのかもしれない。最近よく耳にする言い方では正常性バイアスというところか。

それにしても地下街は案内板だらけだ。しかし、必要な情報が的確に表示されているとは限らない。ひとつの案内板につられて、思いもかけないところに導かれることだってある。この日のわたしはまさにそんな風だった。

案内板に振り回され、あげくは地下通路は行き止まりとなった。右手に折れ、ようやく旅は終わりかと曲がると、そこには広い登り階段がつづいていた。エスカレーターはなく、「上まで173段の階段です」と小さなプレートが貼り付けてあった。千段以上ある四国の金比羅さまに比べればどうということではないだろうが、体力が衰えた年寄りにとってみれば思わずへ



なへなと座り込んでしまいそうになる数字だ。

田舎から親戚がくるたびに、「東京はわけがわからなくて疲れる」と口にするが、彼らにとって四方八方から視界のなかに飛び込んでくる案内表示は、決して親切な案内ではなく、迷いと混乱を引き起こす深い藪の重なりになっているのではないだろうか。情報過多が人間のもつ選択的注意の処理能力を超えてしまうためだ。

都会生活が長いわたしでも、複雑な案内表示のなかで判断を誤ってしまう。外国人観光客の増加にもなあって、ますます案内表示は増えていくだろう。案内板をつくる側の思い込みや、バイアスはきちんとチェックされているのだろうか。とんでもない方向に連れて行かれる可能性はないのだろうか。

この日道を間違えた仲間がもう一人いた。彼はいち早く地上に出たのはよかったが、六本木ヒルズを基点として反対の方向に歩いてしまったという。わたしのように地中深くの不安と、案内表示に思考停止状態にはならなかったものの、ビルの谷底に崩れ落ちてくる建物の危険性を思い描いて心安らかではなかったという。



## 平成29年度

### 「衛生行政報告例の概況」を公表

精神保健、福祉、栄養、医療、薬事、母体保護等11の行政分野について、毎年調査されている「衛生行政報告例」がこのほど公表されました。

精神保健福祉関係では、平成29年度の一般・警察官等からの「精神障害者申請通報届出数」は26,782件、前年度に比べ1,564件(5.5%)減少しています。「申請通報届出のあった者のうち診察を受けた者数」は9,536人、前年度に比べ239人(2.4%)減、平成29年度末現在の「措置入院患者数」は1,444人、前年度比58人(3.9%)減少しており、「医療保護入院届出数」は185,654件、前年度に比べ4,779件(2.6%)増となっています。

また、平成29年度末現在の精神障害者保健福祉手帳交付台帳登録数(有効期限切れを除く)は、991,816人、前年度に比べ70,794人(7.7%)増加、平成29年の精神保健福祉センターにおける相談延人員は128,148人で、主な相談内容別では、「社会復帰」が58,928人(46.0%)と最も多く、次いで「思春期」12,730人(9.9%)、「心の健康づくり」11,434人(8.9%)となっています。

とくに社会復帰が相談内容として過半数近くを占めていることを捉えると、「居住型」中心の大規模デイケアから、小規模デイケアへの移行、障害者福祉支援サービスの福祉領域、民間企業の参入という精神科医療の未来を反映していることにもつながっているのではないかと考えられます。

 医療法人 社団 松和会  
門司松ヶ江病院

〒800-0112 北九州市門司区大字畑355  
TEL (093) 481-1281 (代表) FAX (093) 481-7069  
URL <http://www.matsugae.or.jp/>

発行者：山浦 敏宏

《診療科目》 精神科・心療内科・内科

《関連施設》 介護老人保健施設「フレンドリー松ヶ江」  
特別養護老人ホーム「松和園」  
精神障害者福祉ホーム「カーサ松ヶ江」  
松和会自立支援事業所「まつぼっくり」「くるみ」「すずかけ」